

つながりを切らない
孤立させない
新しいつながり方を提案する

つながる通信

第5号

発行日 2020年5月2日(土)

発行元

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク

〒981-0932

仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1F (CLC内)

FAX: 022-727-8737 E-Mail: t-net@clc-japan.com

ホームページ: <https://www.t-net.online/>

- ・民生委員、児童委員の皆さんに…
- ・サロンや地域のボランティアの皆さんに…
- ・配食のお手紙に添えて…

こんなふうに
使ってね

この通信の印刷、配布はご自由にご利用ください。
記事やイラストの一部を転載・転用する場合は、
t-net@clc-japan.comまで
ご連絡をお願いいたします。

高齢者の見守りと若者支援を、
地域のNPOや事業者との協働で進める

箕面市社会福祉協議会(大阪府)

大阪府は、緊急事態宣言における自
粛期間に、高齢者や障がい者のつなが
りを切らない取り組みを支援するため
に、「外出自粛高齢者・障がい者等見
守り支援事業」を創設し、4月16日か
ら5月6日までの実施事業に交付金を
拠出しています。

日常的に見守りが必要な人約500人
のほか、ケアマネジャーからも利用者
にお知らせをしてもらったところ、
100人以上から申し込みが届きまし
た。
箕面市内でまちづくり活動に取り組
むNPO法人暮らしづくりネットワーク

サービスやサロンなどの休

止にともない、普段より家に
いる時間が多くなり、「3
密」を避けるために買い物に
も行きづらくなった高齢者の
ために、箕面市社会福祉協議
会では見守りを兼ねた昼食の
配達を企画しました。これま
で各種の事業で関わってきた

コロナに負けない!

期間限定! 先着 **50名**

見守り弁当のお届け!

400円
(配達料、税込)

新型コロナウイルス感染拡大にともなう外出自
粛のなか、高齢や障がいのために買い物困難な
場合やデイサービスなどのサービス利用が制限
されている皆さんにお弁当をお届けします。



イメージです

【配達時間】
希望日の10:30~12:30の間に届け
※変更・キャンセルは前日の午前中まで下記にご連絡ください

【期 間】 5月6日まで

※本事業は、お弁当は510deli、配達はイーチ合同会社に委託し実施します。
※ホームページ <https://www.510deli.com>
※高齢者向けお弁当ですが、アレルギーや糖尿病食等の対応食ではありません。

＜申込み・連絡先＞ 箕面市社会福祉協議会 住所: 箕面市船場西 1-11-35
電話 072-749-1575 FAX 072-727-3590 メール tlkiki@minoh-syakyo.or.jp

高齢者宅などにチラシで呼びかけ、希望者を募る



高齢者に食べやすく配慮したお弁当をお届け



若者が
お弁当とともに
笑顔も届ける



ク北芝がコーディネーターとして調整
機能を果たし、まちづくり会社「イー
チ合同会社」が運営するお惣菜屋さん
「510 deli」が高齢者向けの弁
当をつくっています。4月23日から始
めたこの取り組みは、日に60軒前後の
配達があると言います。

暮らしづくりネットワーク北芝で
は、長年、若者支援に取り組んできた
こともあり、そのネットワークで見聞
きした「アルバイトができなくて困っ
ている」という大学生や、箕面市社協
に貸付相談に訪れた相談者もここで配
達の仕事をしています。2人1組で弁
当を届け、不在のときは社協が連絡を
受け、家族や民生委員に連絡を取るな
どしています。市社協地域福祉推進課
課長の朝田大輔さんは、「配達だけで
なく、安否確認の要素が強い。自粛期
間が長引けば、ほかに何が必要なのか

を調査する必要もあると感じている」
と話します。一方で、事業を受託して
いる暮らしづくりネットワーク北芝の
担当者は、「若者が地域の高齢者と出
会う貴重な機会になっている」と、配
達する若者にとつての意義も感じてい
ます。

さらに、市内の飲食店にもこの取り
組みを広げ、飲食店のご近所10軒ほ
どの弁当をつくってもらっています。
配食・見守りだけでなく、就労支援、
地域の事業所支援、ご近所の関係づく
りと、地域づくりの輪が広がっていま
す。

つながるポイント

- ・高齢者の見守りと貸付相談から見た
失業という2つの困りごとを結
びつける
- ・NPO法人や事業者、社会福祉法人な
どとともに取り組みを進める

手づくりのマスクと惣菜配る

集合住宅が建ち並ぶ、沖縄県北谷町の美浜区。

同区自治会は、高齢者福祉計画の地区プランに基づき、月1回程度のペースで地域食堂「みはまちゃん」を開きます。デザートまでつくボリュームたっぷりの定食メニューを200円で提供。毎回子どもから高齢者まで100人ほどが集会施設に集まり、一緒に食事を楽しまます。

食材は、住民や企業からの寄贈でまかなっています。

新型コロナウイルスの感染拡大で地域食堂は休止。一方、食材を寄贈する有志の菜園では、イモ類や野菜が順調に生育しています。これを「どうにか区の活動に役立てられないか」と検討を重ね、惣菜をつくって独居高齢者など、地区の「ちょっと気になる人たち」のところへ見守りを兼ねて配ることにしました。

第1弾は4月23日。区長をはじめ区の役員とボランティアが、寄贈された



コロッケづくりの様子

美浜区（沖縄県北谷町）
ちやたん

ジャガイモでコロッケ100個をつくり、2〜3個ずつパック詰めして高齢者らに差し入れたほか、「ほしい人は地区公民館に取りに来て」と呼びかけました。1個90グラム的大型サイズで味もよく、しかも無料とあって、多くの住民に喜ばれました。近く第2弾として、収穫期を迎えたニラを材料に、ギョウザをつくって配る予定です。

高齡世帯などにコロッケを差し入れる際、手づくりの布マスクも一緒に手渡されました。

布マスクは、縫製の仕事をしている女性（69歳）が、住民の持ち寄った端布などを素材に無償でつくったもの。

この女性は「新型コロナの影響で仕事が減って時間が空いた」と、当初手

持ちの材料で自主的にマスクをつくり、「ほしい人に差し上げて」と地区公民館に持参。受け取った区長は「マスクがなくて困っている住民がたくさんいる。材料はなんとかするからもつとつくってもらえないか」と頼みました。プロの手によるしっかりした布マスクが、買いいものの弱者の高齢者らに届けられ、公民館を通じてさらに多くの住民の手に渡りました。その数およそ150枚（4月28日時点）。いまでも増え続けています。

住民それぞれができることをしてつながりを保ち、支え合いを生み出しています。

つながるポイント

- ・地域食堂を担うけまげまなんのきれぐれの特技を活かす
- ・一人の人の「できる」を多くの人に届ける



無償配布している手づくりマスク

<各地の実践をお寄せください！>

「つながる通信」では、各地での実践を募集しています。「わがまちでこんな取り組みをしている」「私たちはこんな工夫をして、気になる人とつながっている」、そんな情報を編集部までお寄せください。後日、編集部より電話などで取材をさせていただき、本通信やホームページ等で紹介させていただきます。情報は、E-mail: t-net@clc-japan.com、fax: 022-727-8737まで。E-mailの場合は、タイトルを「情報提供」としていただき、①活動内容、②ご担当者名、③ご連絡先を記載ください。本通信の感想やご要望もお気軽にどうぞ！

編集後記

休校や外出自粛要請で、我が家の暮らしも大きく変わりました。家庭の負担も小さくはありませんが、家族の貴重な時間と、たいせつに日々を過ごしたいと思っています。